

平成30年度
学校評価書(学年末)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

平成30年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合				
							0	50	90								
I 個を大切に した生徒指導 の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向けた教育活動が実践されている。	中間期 A	◇中間期に続き評定はAとしたが、保護者の肯定的な評価は、中間期と比較して2%下がっている。2学期に入り、SNSに絡むトラブルやいじめの事案が発生したことも、この原因として考えられる。その都度、どの問題事案に対しても、教職員が誠意を持って粘り強く対応した。その影響か、生徒の評価は5%向上している。	生徒2-3	75	21	3	1	0	96					
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A		◆SNSに関わるトラブルは把握が難しく、学校が知ったときには問題が深刻化していることもある。生徒からの些細な情報にも注意を払うとともに、普段からSNSの正しい利用方法を指導していく。また、保護者に対しても、SNSの利用方法やきまりを守り、使用状況の把握に努めるよう啓発を続けていく。	保護者2-2	24	64	10	2	18	88				
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係・信頼関係が育まれ、生徒は楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇中間期より、生徒・保護者・教職員ともに肯定的な回答が向上している。2学期は、体育祭・文化祭等の学校行事が多く、生徒が協力しながら行事を成功させたという意識が高まったためと思われる。また、生徒間のトラブルや学習面での悩みに対して誠実に対応していることが、教師に対する信頼が高まっている理由として考えられる。	生徒1-1	66	28	2	3	0	95					
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A		◆生徒会活動や部活動などと関連付けながら、生徒間の信頼関係を更に高めていく。また、教職員全体で、学習のつまずきや人間関係のトラブルなどに注意をしながら、生徒が成長できるように支援を行う。加えて、今後とも教師が信頼できる身近な大人として、生徒に寄り添う指導を心掛ける。	保護者1-1	50	46	3	1	0	96				
			③	生徒の主体性を生かす活動		生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇全ての自己評価とも9割を超えているため、評定をAとした。2学期は体育祭や文化祭など、生徒主体の行事が多く、積極的に充実した取組ができたためと考えられる。少数ではあるが、否定的回答もあるので、振り返りを充実させ、細かな配慮のもと、生徒会活動や学校行事等の計画を立案することが課題である。	生徒1-10	67	28	5	0	0	95		
						【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A		◆前年度の反省事項をよりよく改善するために、企画会・職員会等で教職員が事前にはっきりと協議をしておく。また、生徒とも計画的に話し合いを行い、生徒に任せるところは任せ、生徒の自主的・主体的な活動となるよう、支える体制を整えていく。	保護者2-4	34	60	6	0	10	94	
						教職員3-1	39	52	9	0	0	91					
						教職員3-2	30	70	0	0	0	100					
						<自己評価アンケート以外の評価材料> ・学校生活アンケート ・教育相談による情報											
						<自己評価アンケート以外の評価材料> ・学校生活アンケート											
						<自己評価アンケート以外の評価材料>											

【学校運営協議会における意見・提案等】

- SNSに関わるトラブルが心配されるが、生徒同士の人間関係にも影響を及ぼす可能性があるため、家庭における約束を明確にしておかなければならない。
- SNS上のやりとりでは、生徒相互の認識の誤解によるトラブルが多いようなので、大人がしっかりと状況を把握していかなければならない。
- 生徒同士が、相手の顔を思い浮かべながらやりとりができる人間関係作りを支援してほしい。
- 教職員と生徒の人間関係が良好な状況が見られるので、この学校の雰囲気を持続できるように努力してほしい。
- 多様な行事を通して、よい経験ができていっているようである。楽しい学校生活が送れていると感じる生徒たちの気持ちを更に高めてほしい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

平成30年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
													0	50	90
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇教職員・生徒ともに目標値を達成しているため、A評定とした。しかし、中間期と比較すると、教職員は5ポイント下がっている。これは、研究主題決定後、「主体的・対話的で深い学び」についての捉え方による評価の違いが表れたと考えられる。一方、生徒は、中間期との変化は見られない。授業において「分かった」という満足感を得ている生徒が多いことがうかがえる。	教職員2-1	29	62	10	0	0	90			
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆今後は、「主体的・対話的で深い学び」について、教職員間で再度共通理解を図る必要がある。その上で、これまでの取組を基盤にしながら、研究主題にもある「主体的な学び」、「ねらい」や「分かる授業」の一致を更に図りながら、生徒のよりよい学びのための授業改善に取り組む。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉									
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	研修や自己研鑽に主体的に取り組む、生徒一人一人に「学びに向かう力」を育て、きめ細かな学習指導、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇中間期の評価と同じく、A評定であり、評価4、評価3の数値にも大きな変化はなかった。数値には表れていないものの、2学期以降、研究主題の決定、研究部会の組織化、研究授業の推進などにより、研修や自己研鑽に主体的に取り組んだ結果であると思われる。特に「主体的な学び」に向かう生徒の育成のために、様々な面から授業改善を図ったためと考える。	教職員1-2	43	57	0	0	0	100			
		【目標値】 教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆「主体的な学び」に向かう生徒の育成を目標に、その手立てとして授業改善に継続的に取り組む必要がある。それが研修意欲の高揚や自己研鑽につながるからである。また、基礎的・基本的な事項の定着を図るためには、授業内での指導だけでなく、提出物や宿題を丁寧に確認するとともに、ドリル等の効果的な活用方法を探る必要がある。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉										
	⑥	家庭学習習慣	1日90分以上(通塾も含む)の家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇中間期と比較すると、生徒はほぼ同じ回答傾向であったが、保護者は7%伸びている。保護者の評価が8割に達していないため評定はBとした。個々の学習時間の差や学習内容の充実について課題は残る。保護者が生徒の学習状況を十分に把握できていないことも考えられるが、評価4の低さから、保護者には「もっと学習してほしい」という気持ちがあることが推察される。	生徒1-2	32	51	15	2	0	83			
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 B	◆学年部による自主学習ノートの指導や学習委員会による集会での啓発が意識を高める上で効果的だったと考える。その中で、通塾している生徒としていない生徒の家庭学習に対する意識の差(「通塾すれば必然的に時間確保がされる」など)が見られる状況もあるため、進路指導の充実を図りながら、生徒への指導に工夫を加え、保護者への啓発を継続的に行っていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査										

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 教職員が、計画的に授業改善を目指して研究授業を実施していることには大きな意義があるので、更なる充実を図ってほしい。
- 子どもの「主体性」を伸ばす取組は、多くの方面で取り上げられていることでもあり、今後も具体的な方策を打ち出していくとよい。
- 家庭学習時間がB評定であることに、家庭でのSNS等の使用が影響しているようであれば問題である。正確な実態把握と問題の解消に努めなければならない。
- 家庭学習に関する件は継続的な課題として捉えて、家庭への啓発を引き続き行いながら、状況の好転を図っていくのが望ましい。
- 生徒自身が「生活予定表」を作れるようなスキルを培い、自己管理能力を身に付けられる流れができるように、家庭も学校も工夫しながら頑張るとよい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

平成30年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4・3の割合											
							4	3	2	1	?	%	0	50	90			
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中学生らしい言動 気持ちのよい挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、中学生らしい言動がとれる生徒が育っている。	中間期 A	◇全ての項目で肯定的回答が8割を超えており評定をAとした。しかし、中間期と比べて、教職員が4%、生徒が1%減少している。また、中間期にあった保護者の1の回答はなくなったが、2の回答率は変わっておらず、十分とは言えない状況である。今後も挨拶の指導や呼び掛け等、具体的な方向付けが必要である。	教職員3-3 生徒1-5 保護者1-2 地域1-1	22 60 29 20	61 37 55 68	17 3 16 7	0 0 0 0	0 0 0 5	83 97 84 92						
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆2学期より、「一言キャンペーン」を取り入れ、朝のあいさつ運動の際に、一言付け加えて、人とのつながりをより強く感じようという活動を行っている。以前に比べて返ってくる挨拶の声が大きくなったのではないかとこの感触もある。しかし、意識に個人差が見られるため、今後も具体的・継続的な取組をしていかなければならない。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒のあいさつ運動の状況												
	⑧	人権尊重・心の通い合い	心が通い合い、互いの人格や人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定的回答が8割を超えており、A評定とした。生徒の肯定的な意見が、中間期88%から90%に上昇しているのは、「御荘中学校 差別をなくする強調月間」や全校道徳などの取組の成果だと考える。しかし、生徒・保護者ともに1の回答が2%という数値が中間期と変わっていないため、一層の努力が必要である。	生徒1-9 保護者2-3	45 25	45 58	8 16	2 2	0 13	90 82						
⑨	道徳教育の充実	道徳の時間の充実が図られ、対話のある学びを通して、優しい心や道徳的実践力が育てられている。	中間期 A	◇教職員・生徒ともに肯定的回答が9割を超えており、A評定とした。肯定的な意見の割合も否定的な意見の割合も、ほぼ中間期と同じで、大きな変動はなかった。中間期から、道徳の時間の学習や自分自身の成長の過程に満足していない生徒の割合も変化しておらず、より一層、生徒の視点に立った、道徳の時間の充実が必要である。	教職員6-1 生徒2-5	22 69	78 25	0 5	0 1	0 0	100 94							
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆昨年度と同じ項目より、教職員・生徒ともに肯定的な意見が増えており、継続した取組の大切さが結果に出ている。学級担任だけでなく、全教職員が継続して生徒の実態に応じた授業の展開を心掛け、安心して意見が発表できる授業の充実を図り、道徳の教科化にもしっかり備えていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容												

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 生徒会で取り組んでいる「あいさつ運動」「一言キャンペーン」が、校内にとどまらずに校外でも実施できるようになると更に教育的効果が上がると考える。
- 挨拶については、生活している場所の地域性や生徒たちの発達段階もあり、一概にできている、できていないとは言えないのではないかと。
- 人権教育、道徳教育に関する評価もA評定が継続されているため、日々の指導の効果は上がっている。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

平成30年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合			
													0	50	90	
IV 健やかな体の育成と安全教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇1・2年生の運動部活動は新体制の中での活発な取組があるが、3年生の運動部活動は終了していることもあり、中間期と比べ生徒の評価は下回っている。ただ、教職員・生徒ともに評価が8割を上回っているため評定をAとした。保健体育科の授業で、基礎体力作りの継続的な取組やダンス領域での活発な活動、また、運動部活動では、郡新人総体でのすばらしい結果が高い評価の要因となったと考えられる。	教職員7-1	35	61	4	0	0	96				
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆保健体育科の授業では、これまで通り、基礎体力作りの継続と各運動領域での運動量の確保を行う。運動部活動では、持久力を高める運動を主とするトレーニングを取り入れていく。また、部活動が終了している3年生や文化部の生徒には、家庭でも行える継続可能な簡単な運動について、随時紹介をしていく。	生徒1-4	48	32	17	2	0	81				
							〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・保健体育の授業の様子 ・郡新人総体の結果									
	⑪	安全・安心な学校づくり	安全・防災教育の改善と充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	中間期 A	◇文化祭での防災小説コンテストや校内避難訓練、平城五常会・節崎・馬瀬地区合同避難訓練など、あらゆる手立てを講じて防災教育の充実を図っている。その結果、生徒・保護者・教職員の肯定率が目標値を上回っている。特に生徒に関しては、95%の肯定率で、充実した取組の結果であると考えられる。	生徒2-6	76	19	4	1	0	95				
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆今年で3年目の地域合同避難訓練の実施ができた。地域とともに考える防災教育を今後も継続していきたい。また、昨年度から引き続き、慶應義塾大学准教授大木聖子先生から提案いただいた、防災小説コンテストを実施し、地域合同避難訓練や愛南町防災フォーラムで披露することができた。このように、防災教育を地域に発信する役割も担っていく。	保護者2-5	43	46	2	0	10	89				
							〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・地域との連携の状況									
⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 B	◇生徒の肯定的回答は8割を得ているが、保護者は8割に達しない状況が続いている。スマホやゲームの使用とともに、塾での勉強により就寝時間が遅くなっている生徒もいるようで、帰宅後の時間の使い方に課題があると考えられる。朝食については、少しずつではあるが、バランスよく食べる生徒は増加している。	生徒1-7	48	35	13	4	0	83					
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 B	◆学校保健委員会での協議をもとに継続していくことになった「ノーテレビ・ノーゲームの日」を実施していくことにより、テレビの視聴時間やゲーム、スマホの使用時間を軽減させ、有効な時間の使い方を生徒自身に考えさせたい。また、「朝食の日」については、「早寝・早起きや自分で作ること」を生徒自身の目標とし、今後も継続して取り組ませる。	保護者1-4	40	36	22	2	0	76					
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果										

【学校運営協議会における意見・提案等】

- スマホは購入時の設定やアプリを使って制限を設けることができるので、保護者が適切にコントロールすることが重要である。
- スマホの使用方法等については、生徒だけではなく、親子で学べるような学習の機会が設定できるとよい。
- 自転車の乗り方やマナーについては、事故防止の観点からも継続的な指導が必要である。
- 早寝・早起きについては、中学生という発達段階を踏まえた指導や評価が必要なのではないだろうか。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

平成30年度学年末(1月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合							
													0	50	90					
V 家庭や地域との連携による特色ある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇アンケート結果から高い評価が得られたため、A評定とした。2学期に実施した多くの行事を始めとして、数々のボランティア活動への参加や総合的な学習の時間における活動等、地域や職業とのつながりを多く持つことができた。生徒のアンケートや感想にも、故郷を大切に思う気持ちや地域の方への感謝の言葉がたくさん綴られていた。	教職員4-2	48	52	0	0	0	100								
			保護者2-6	29		54	4	0	13	95										
	地域2-2	20	56	2	0	22	97													
			【目標値】 教職員・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆行事の精選等を含め、生徒・教職員ともに過度な負担とならないよう、毎年反省・改善を充実させながら取り組んでいく。また、学校運営協議会の協力を得ながら、更に地域と密接につながり合う教育の充実に努める。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・体験学習後の生徒の感想等														
⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇個別の指導計画を作成し、学年会や職員会議などで支援を要する生徒への理解と対応について共通理解を行った。また、就学相談等が必要な場合には、保護者、関係諸機関と連携を図り、よりよい支援体制について話し合った。これらの方針や取組が、保護者にも正確に伝わっていると思われる。	保護者2-7	31	66	2	1	14	97									
		教職員5-1	39		43	17	0	0	83											
			【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆合理的配慮の視点から、ユニバーサル・デザインの視点に立った授業づくりを目指す。また、学習支援員や非常勤職員(中一ギャップ)による、一人一人の生徒の状況に応じた効率的な支援を今後も継続して行う。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉														
⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇回答の8割以上が肯定的であること、学校・学年等の各種たよりが定期的に発行されていることと、ホームページの更新がほぼ毎日行われていることから、評定をAとした。各種たよりのホームページにより、行事だけではなく授業時間などの各学年の取組をはじめ、多くの教育活動の様子をその都度配信することができ、幅広く情報発信することができた。	保護者3-3	41	46	12	2	2	86									
			【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	学年末 A	◆今後もホームページの更新をこまめに行い、学校や学年からの各種たよりと併せて、学校生活(授業の様子、学校行事、生徒会活動、部活動)など、様々な教育活動の様子を工夫しながら継続的かつ幅広く発信していく必要がある。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・ホームページ閲覧数の推移 ※ホームページ閲覧数406,772(H31.1.25現在)														

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 地域との合同防災訓練は少しずつ範囲を広げていくとよい。各小学校区の単位で実施するのがよいのではないだろうか。自主防災組織の取組が重要となる。
- 小学校では春の運動会に移行している学校も出てきているようだが、中学校では総体が実施されるためこの時期の体育祭開催は難しい。
- 特別支援教育の充実の項目では、「分からない」と回答している保護者の割合が他項目と比較して高いため、効果的な啓発を実施していく必要がある。
- ホームページが日々更新され、生徒の様子がよく分かる。学校だよりや学級だよりの発行も充実しており、家庭や地域にとっては大変ありがたい。
- 行事の精選という視点から考えると、中学校の行事は少し減らしていく方向でもよいのではないだろうか。